令和４年度
「道徳教育応援チーム派遣事業」
実践校の取組

【道徳教育応援チーム派遣事業】

栃木県では、道徳教育の充実を目指して取り組んでいる学校に対し、教育事務所や市町教育委員会と連携を図りながら、指導主事をチームとして派遣しています。

本事業は、道徳科*の授業改善や教師の指導力の向上、児童生徒の発達の段階に応じた道徳性の確かな育成を目指すものです。

令和４年度は、次の小学校２校、中学校１校で実践を行いました。

・真岡市立山前小学校　・那須塩原市立共英小学校　・小山市立小山第二中学校

このリーフレットでは、本事業に協力いただいた各学校での取組や成果・課題等について紹介しています。

道徳は、平成30年度で小学校、令和元年度に中学校で教科となりました。各学校で、道徳教育や道徳科の授業のより一層の充実に向け、実践校の事例を参考にしていただければと思います。

＊本リーフレットでは、「特別の教科　道徳」を「道徳科」と表記します。

令和５（2023）年３月
栃 木 県 教 育 委 員 会

真岡市立山前小学校

研　究　主　題

主体的で対話的に学ぶ児童の育成を目指して
～自己を見つめ、生き方についての考えを深める道徳科指導を通して～

◇研究のねらい

本校では、全体的に素直で穏やかであるという良さがある一方で、自分の考えを表現することに対して自信をもてない児童が多く、道徳科の授業においても多様な考えが出にくいという実態がある。

そこで、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、多面的・多角的に考え様々な課題を自分の問題として捉えることができる授業展開を通して、児童の多様な考えを引き出し、広げることにより、友達の考えに触れ自分の考えを深められるようにした。

◇実践内容

道徳的価値に迫るための授業づくり

・　本時でねらう道徳的価値に迫るための授業づくりを研究した。自分の考えを素直に表現できる発問や、ねらいに迫るためのよりよい話合いの形態、思考を可視化する方法等の工夫について授業で実践を重ね、本校の児童の実態に合った展開を構築した。

【グループで話し合う児童】

【自分の考えを表現する児童】

提案授業及び校内研修の実施

・　宇都宮大学　和井内良樹　教授による提案授業と校内研修を実施した。研修のテーマとして、「発問の工夫」と「授業のコーディネートの工夫」の２点に焦点を当てた。

・　提案授業は３年生で実施し、児童が主体的に学習に取り組む様子を参観することができた。

・　授業後の研修において、児童の主体的な取組を生み出した理由を、研修テーマについて考えることを通して、具体的な方法を見出すことができ、教師一人一人の授業力向上につながった。

【提案授業の様子】

【校内研修の様子】

教職員の学びに向かう集団づくり

・　全教職員が一丸となり、「考え、議論する道徳」の授業づくりを研究した。児童の学習意欲を高める導入の工夫、本音を引き出す教師の発問等、チーム意識をもち研修を進めた。

・　研究を進める際には児童へのアンケート調査を実施するとともに、研修会では、より実態に合った授業の展開を協議した。また、指導案検討と授業実践を繰り返し、振り返りを行いながら、教材研究を深めた。組織的な取組は、同僚性が高まるとともに、教員の指導力向上につながった。

【１～３年生】

項目	◎そう思う	○だいたいそう思う	△あまりそう思わない	×そう思わない
1　道徳の授業は楽しいか。	62→65％	30→27％	4→6％	4→3％
2　役に立っているか。	71→66％	13→27％	12→2％	4→6％
3　自分の意見をしっかりと発表できるか。	47→45％	33→37％	14→10％	6→8％
4　新しい気付きや発見があるか。	67→66％	21→27％	10→4％	2→4％
5　自分の生活につなげて考えているか。	52→54％	35→30％	9→12％	4→4％

【４～６年生】

項目	◎そう思う	○だいたいそう思う	△あまりそう思わない	×そう思わない
1　道徳の授業は楽しいか。	62→43％	30→42％	4→13％	4→3％
2　役に立っているか。	71→66％	13→28％	12→2％	4→4％
3　自分の意見をしっかりと発表できるか。	47→39％	33→32％	14→21％	6→7％
4　新しい気付きや発見があるか。	67→67％	21→28％	10→5％	2→0％
5　自分の生活につなげて考えているか。	52→37％	35→47％	9→11％	4→5％

【アンケート実施】

【研修会の様子】

○成果（児童生徒や教師の変容等）

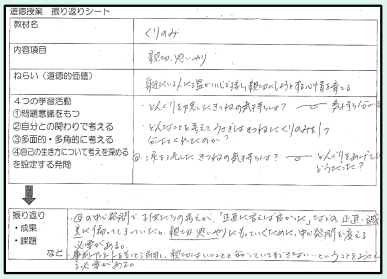
・　話合いや交流の仕方の工夫、教具の活用により、児童が自分の意見を表出できるようになってきた。

・　「道徳の授業が楽しい」という教師が増えた。研修会だけでなく、日常的に道徳科や道徳教育に関する話題が増え、授業スタイルの共通理解を図りながら、一人一人の授業力の向上を目指すことができた。

●今後の取組

・　ねらいとする価値に迫るための中心的な発問の在り方について、さらに研究する必要がある。

・　今回、導入した「道徳授業振り返りシート」を継続して活用し、教師が自らの指導を振り返り、さらなる授業改善を図る必要がある。



道徳授業　振り返りシート

教材名	くりのみ
内容項目	親切、思いやり
ねらい（道徳的価値）	身近な人に思いやりを持ち、親切にすることの大切さを考える
４つの学習活動 ①問題意識をもつ ②自分との関わりで考える ③多面的・多角的に考える ④自己の生き方について考えを深める を設定する発問	・友だちとくりのみ、どっちが大切だと思ったか？ ― 大切なもの ・友だちとくりのみ、どっちが大切だと思ったか？ ・どんなことを考えて、どっちが大切だと思ったか？ ・友だちにとってくりのみは？ ― 友だちがもらうとどうなると思う？
振り返り ・成果 ・課題 など	③の中心発問で、子供たちの考えが、「相手に喜ばれる嬉しさ」ではなく、正直・誠実に伝えればいいから、親切は思いやりにもっていくために、中心発問を変える必要がある。 身近なものを考えて、自問し、親切にしたいと思っていても、「きっと嬉しい」というつながりを考える必要がある。

【道徳授業振り返りシート】

那須塩原市立共英小学校

研　究　主　題
道徳科における豊かな心の育成
～子供の伴走者としての教師の支援の在り方を探る～

◇研究のねらい

児童が主体的な学習者としてその力を存分に発揮するために、教師はその力を引き出すための伴走者でもある。児童が学習の主体として、思わず「考え、議論」したくなるような「問い（問い返し等）」や場づくり等の学習環境を道徳科としてどのように整えていったらいいのかについて、探っていった。また、小・中学校が連携することを通して、校内だけにとどめず、地域として豊かな心を育成できるようにした。

◇実践内容

模擬授業による校内研修

- 白鷗大学　中山和彦　講師による模擬授業を教師を対象に実施し、児童の立場になって授業を受けることによって、新たな目線で授業について考える機会となった。講師からは、授業の導入・展開・終末の組み立て方や本時で考えさせたいこと（本時のねらい）をしっかり意識して授業づくりをすることを提案していただき、日頃の授業実践をする中で疑問に思っていたことが解消できた。
- 研修において、板書や問い返しの発問、振り返りシート等、授業づくりにおけるポイントを、全教職員で共有することにより、指導力の向上につながった。

【模擬授業の様子】

小中が連携した授業づくり

- 校内での研究にとどまらず、厚崎中学校区（厚崎中、埼玉小、共英小）小中一貫教育の中で研究を深めることを検討し、本事業についての取組を伝え研究を共に進めることができた。
- 各校の研修主任が中心となり、授業づくりの視点を作成し、３校合同の授業研究、各校における授業実践を通して、常に見直しを図り、道徳授業の質的改善を進めることができた。

【指導案検討会の様子】

- 中山講師による研修や指導案検討会等に厚崎中学校や埼玉小学校の先生方も参加して、共に学ぶことができた。
- 授業だけでなく、あいさつ運動、陸上合同練習会など、小中一貫教育を通して教育活動全体を通して、道徳教育に取り組んだ。

【研究授業の様子】

授業研究会の活性化

- 指導案検討の際、教師を児童に見立てた模擬授業をすることで、児童の思考の流れを考えることができた。紙面上での指導案の検討より効果的であった。
- 授業研究会のプレ授業を中学校区内の埼玉小学校で実施することにより、改めて授業を見つめ直すことができた。その後、本校でプレ授業を行うことで、さらに研究を深めることができた。また、この研究を小中一貫教育の学校間で共有できたことも、本地区にとって有効な機会となった。

【校内研修の様子】

○成果（児童生徒や教師の変容等）
- 道徳の授業を通して児童が自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする意識が高まった。
- ICTを活用しクラス全体の意見を知ることにより、自分の考えに気付くことができる児童が見られた。
- 教師が道徳の授業の楽しさ、奥深さ、難しさを感じたことにより、授業力の向上に取り組んでいきたいという意識を高めることができた。

●今後の取組
- 児童の実態を踏まえた授業を展開するために、指導する内容によって児童の実態に沿った教材の開発や児童が考えたくなるような発問の研究をしていく。
- 小中連携の取組の中で、授業づくりをしてきた。今後も授業を参観し合い、指導力向上につなげていく。また、道徳の授業における教材・教具等も小小連携の中で、計画的に蓄積して、授業改善につなげていく。

小山市立小山第二中学校

研　究　主　題
自発性・主体性を育てる道徳教育
～道徳的実践と連関させた学習活動の充実～

◇研究のねらい

本校では、道徳性を養うために道徳科で育んだ道徳的な判断力、心情、 実践意欲と態度と日常的に行われる自問清掃での道徳的実践を互いに関連付けて指導している。清掃の振り返りを恒常化させ、その反省を用いて道徳の授業を展開した。

※　小山第二中学校における自問清掃とは
　清掃は自分の心を磨く時間と捉え、場所をきれいにすることだけを目的とせず、教師から「指示・命令・注意をしない」、「心が整わないときは働くことをやめて休んでよい」という考えを生徒たちと共有しながら、子供たちの自発性を徹底して信じ、子供の自立心を育む活動。

◇実践内容

資料開発、発問、話合いのコーディネート

- 自問清掃の振り返りを資料として扱うことで、生徒一人ひとりが課題となる事象を自分の事として考えやすくなった。各々が考えをもった状態で議論に取り組み、話合い活動の充実を図ることができた。
- 内面的資質の育成のため、道徳的諸様相のうち、どこに焦点を当てるか整理し、発問を考えた。

【話合い活動の様子】

教職員の学び合う集団づくり

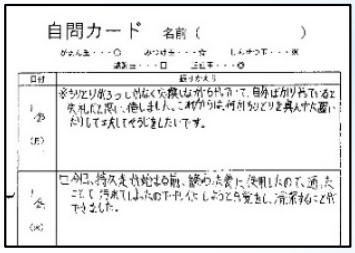
- 授業改善のために、各学級で行った道徳科の授業を動画として保存し、その動画をもとに話し合い、学級の実態に合った授業展開となるよう発問や板書を工夫した。
- 他学年の授業を相互に参観し、授業研究会に参加することで自分の指導法の改善につなげることができた。学校全体として、教職員の道徳科に対する意識が高まった。

【職員研修の様子】

【授業研究会の様子】

学業指導の充実

- 生徒が道徳科の授業で深め、自問清掃で具現化したことを、自問カードに記入し、振り返りを行った。それを基に、各学級の短学活の時間に担任から声かけを行った。
- 清掃活動に限らず、学校の教育活動の様々な場面に広がる効果が見られた。例えば、授業開始３分前から学習に取り組む生徒の姿が見られるようになるなど学力向上にも結びついている。



【自問カード】

【３分前学習の様子】

○　成果（児童生徒や教師の変容等）
- 学校全体で取り組んだあいさつ運動に、学年を問わず多くの生徒が自発的に参加する姿が見られるようになった。また、朝の落ち葉掃きを、自分たちで考え行動している生徒の姿を見て、他の生徒も参加していく姿が見られるなど、自発的な行動が連鎖的に広がっている。
- 学校行事などで、自律の精神を重んじることができた。自己決定した行為を、外部に対して働きかけることに消極的な生徒もいたが、この取組が進むにつれて、周囲に対して気働きし、自分で考え行動できる生徒が徐々に増えている。

●　今後の取組
- 今後の道徳教育では、「感謝」と「正直」を重点目標とすることを検討し、生徒の道徳性をさらに養っていく。既存の「がまん」、「親切」、「見つける」という３観点で実施してきた活動に対し、自分の正直な気持ちと向き合いながら、人や物に対する感謝の気持ちを問いかけていくことで、自分の心を磨き、さまざまな活動に誠実に取り組む生徒を育成していく。

栃木県教育委員会事務局義務教育課
〒320－8501　宇都宮市塙田１－１－20　　TEL：028－623－3392　FAX：028－623－3399